

8年前の『災後の新聞』から

写真は8年前に名古屋の風媒社から出版した小さな拙著。大阪の人には、ほとんど知られていないので、すこしだけ紹介したい。

本書のなりたちは、日本ジャーナリスト会議(JCJ)が毎月発行する『ジャーナリスト』の「月間マスコミ評」に寄稿した原稿をもとにしている。2006年10月から隔月で執筆してきた。こうして一冊の本にまとめようとしたのは、日本社会への危機感からである。2013年暮に特定秘密保護法が強行成立されたが、その1ヶ月前に学生に呼びかけて連日「昼休みサロン」を開催した。新聞記事をコピーして、学生らと意見交換した。「新聞離れ」が言われて久しいが、インターネットとは違う新聞の持ち味を伝えたいと考えてきた。

ほんとうは私の「退職」のときに、本書を出版したかった。2014年3月末で35年にわたる教員生活を卒業した。2月22日の最終講義は、「地域から現代社会を考える」と題して、私の教育研究を振り返った。講義のさいごに、いまの厳しい問題状況を踏まえ、自分の考えや意見をきちんと持ち、新聞を読み積極的に発信しようと呼びかけた。本書が新聞から現代社会を考える参考になれば幸いである。

本書は2006年10月から14年6月までの政治経済、社会の動きなどを伝えている。表紙帯に「第1次安倍政権から、民主党への政権交代、〈3・11〉…そして第2次安倍政権へー。日本社会の不安定な揺らぎ、直面する深刻な危機の姿を、新聞記事からたどり、検証する」

今から10年前、2012年2月の「自治体ポピュリズム」後半を紹介したい。

自治体ポピュリズム(大衆迎合路線)が中央政治を揺さぶる。情けないのは民主・自民といった政党まで、大阪維新の会にすり寄っていることだ。維新政治塾へ応募が殺到している。大阪維新の会は「脱地域政党」として、衆院選に向け首相公選制やTPP参加、憲法改正などを公約に掲げる。朝日2月12日インタビューで橋下大阪市長は「選んだ人間に決定権を与える。それが選挙。ある種の白紙委任」と述べる。政治の混迷・劣化がつづく、本当に白紙委任することになりかねない。

そろそろ『災後の新聞』続編を準備したいものだ。「白紙委任」をさせないために。

(2022年2月20日)

